

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00914

研究課題名（和文）20世紀アメリカを中心としたトランスナショナルな法文化圏の形成と変容

研究課題名（英文）The Formation and Transformation of Legal-Cultural Spheres and the 20th-Century United States

研究代表者

石井 紀子 (ISHII, Noriko)

上智大学・外国語学部・教授

研究者番号：60407385

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題の成果は、石井紀子・今野裕子の編著による論文集『「法-文化圏」とアメリカ』（2022）にまとめられた。「帝国と法規範のローカリゼーション」「越境活動が創出する『国民』理念」「グローバル化とアメリカ政治文化」という3つの視点から、20世紀のアメリカ合衆国や関連諸地域（州として編入される前のハワイや、その他南アフリカ、日本、イスラエルなど）において起こったさまざまな法規範にまつわる文化の変容や、価値の衝突とその帰結について明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究示した新たな「法-文化圏」という操作概念の援用により、今後幅広い知見の蓄積と、分野を架橋する学術的議論の広がりや交流が期待される。隣接概念である「帝国」の法規範や、先住民の法文化との関連性についても、分析を加えることが可能である。さらに、イスラーム圏やアジア圏など他「法-文化圏」と、欧米的、あるいはキリスト教的な「法-文化圏」との邂逅や衝突、折衝、融合を見ることによっても、この研究の地平をグローバルに広げてゆくことができるであろう。

研究成果の概要（英文）：With the aim of overcoming the limitations of a nation-based way of looking at history, our group came up with a new analytical framework that adds another layer to the methodology of transnational history. Our premise is that nations, peoples, and institutions share certain value systems associated with laws, rules, principles, and policies. Individual members of our group examined what happened within certain communities sharing those ideas/ideals, which we conveniently termed "legal-cultural spheres," and how/whether those occurrences influenced the shapes of legal-cultural spheres around the world including the United States in the 20th century. Our research findings can be found in "Twentieth-Century Transnational America: The Formation and Transformation of Legal-Cultural Spheres" (2022), co-edited by Noriko Ishii and Yuko Konno, and published by Sophia University Press, Tokyo. The book is in Japanese.

研究分野：アメリカ合衆国史

キーワード：アメリカ 法文化圏 トランスナショナル・ヒストリー 20世紀

1. 研究開始当初の背景

21世紀におけるグローバル化の進展と軌を一にするように、歴史学研究においても一国史や一帝国史の限界を乗り越えた枠組の設定が自明のものとなって久しい。本研究はそのような研究動向を踏まえつつも、「トランスナショナル」「グローバル」「帝国」「地域」といった地理的・地政学的な視角を形成・解体し得る、思想や理念、政策、信条の広まりや変容に焦点を当て、境界を越えた人的つながりのもたらす変化に焦点を当てた。

具体的には、アメリカ及び関連諸地域における法秩序や規範が、境界を越えた思想・制度の連関を通じて広域的に形成された過程を解明するため、「法-文化圏」という概念を新たに導入し、実証研究を試みた。法文化とは、法に纏わる諸事象の背後に存在する価値体系を指すが、その分析によって法の成立・展開等の歴史的経緯が説明可能となる。たとえば、Smith [1997] が示唆するように、アメリカ市民権に関する法的不平等の歴史を理解するには、市民権法の制定過程における政治的闘争だけでなく、こうした実定法の形成を社会的・理念的に方向づけた公民概念という法文化に注目する必要がある。本研究はこうした従来の法制史研究の知見を踏まえた上で、さらに分析の射程を拡張し、法文化が境界を超えた広がりをもつ点に着目した。多くの場合、ある法文化を構成する価値体系は、複数の国や地域で歴史的に共有されてきた。福祉国家体制を類型化して国際的な「福祉レジーム」の存在を指摘した Esping-Andersen [1990] や、19世紀の大西洋世界における救貧法制度の広がりを検証した Hirota [2017] 等の研究成果は、一国史の枠組を超えた法制史研究の重要性を示唆している。本研究は、このような既存の社会学や歴史学の成果を前提としつつ、法文化を構成する価値体系の影響範囲を「法-文化圏」として捉え直すことで、範囲の異なる複数の法文化圏が重層的に構築され、規範や理念が多方向的に連動・影響し合う過程を実証的に分析することを目指した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、アメリカを中核とする「法-文化圏」の存在を明らかにし、トランスナショナルな見地からアメリカ法制史を捉え直すことであった。具体的には、以下 3 つの分析視角によって「法-文化圏」の多様な構成と機能を実証的に解明することにあった。

- (1) 北米「法-文化圏」内における法概念の<変容>：第 1 の分析視角では、イングランド慣習法の伝統を継承するアングロ・アメリカ世界の「法-文化圏」内部で発生した法概念の変容を検討する。本研究は、19世紀後半から 20世紀前半にかけて日本人を含む有色人種が北米地域へ移動した結果、同地域において公共性や市民権の概念が人種化された過程とその影響を考察する。
- (2) 「国際社会」の法文化とアメリカ国内の政治文化との<対立>：第 2 の分析視角では、冷戦期「国際社会」で支配的であった法理念や法規と、合衆国内の政治状況との間に生じた葛藤によって、アメリカの法概念や政治文化が変容を迫られた過程を分析する。本研究は、冷戦体制下の人道援助要請や国際法規に定められた人権概念が、アメリカ国内で優位を占めた議論やイデオロギーと衝突し、後者に作用を及ぼしてゆく様相を解明する。
- (3) アメリカを起点・媒介とした「法-文化圏」の<拡張>：第 3 の分析視角では、アメリカを中核とする法文化圏が、アジア太平洋地域や南アフリカなど他地域へと拡張する過程を、民間団体や行政職員の国際移動を通じた制度・思想の移転・移植に着目して考察する。本研究は、20世紀前半にアメリカの人道主義や教育思想がアジア・アフリカ地域に伝播した結果、北米地域の法文化が他地域の法文化圏の原理に接合されてゆく過程を分析する。

3. 研究の方法

アメリカおよび関連諸地域の法秩序・規範の形成過程を、「法-文化圏」の変容・対立・拡張という広域的な文脈のなかに位置づけて考察する。各研究者は、人・制度・思想の境界を越えた連関に留意しつつ、以下の役割分担で事例研究を進め、最終的に個別事例の比較・総括を行うことで、アメリカを中核とした「法-文化圏」の全容を明らかにする。

なお、当初は上記 2. 「研究の目的」で述べた視角ごとに研究をグループ化していたが、議論を重ねる過程で以下のように個別研究の位置づけと役割分担の見直しを行った。

- (1) 帝国と法規範のローカリゼーション：牧田は、20世紀前半のアジア太平洋地域における人道主義思想の伝播と変容の過程について、アメリカ赤十字社による国際人道支援に焦点を当てて考察する。今野は、北米「法-文化圏」における 20世紀前半の水産資源管理と外国人排斥の関係性を中心的な主題として、アメリカおよびカナダ西岸への日本人漁民の移動によって「公共 (public)」という概念が人種化された過程とその影響について検証する。
- (2) 越境活動が創出する「国民」理念：上林は、欧米への留学経験を持ち、南アフリカの解放闘争に重大な役割を果たした黒人知識人の政治思想を検証し、彼が構想した南アフリカ

市民権理念の淵源を辿る。石井は、太平洋戦争前に来日したアメリカ人宣教師の活動を分析し、国家と宗教的「法-文化圏」との間に存在した緊張関係が、国際的紛争を契機に明確化していった過程を明らかにする。

- (3) **グローバル化とアメリカ政治文化**：小滝は、1960年代初頭にアメリカが実施したキューバ難民の受け入れプログラムに焦点を当て、人道援助にまつわる「法-文化圏」とアメリカ福祉政策との関連性について分析する。佐藤は、アムネスティ・インターナショナル(AI)とその米国支部(AIUSA)の中東問題に関連する活動に着目することで、国際的な人権規範と国際法概念がアメリカで支配的な政治文化に与えた影響を検証する。

4. 研究成果

本研究課題の成果は、石井・今野編『「法-文化圏」とアメリカ』(2022)にまとめられた。以下はその概要である。

- (1) **帝国と法規範のローカリゼーション**：第1章において牧田は、国民国家モデルに依拠した国際赤十字運動の「単一原則」が、多民族を抱えた日米両帝国の前哨地ハワイにおいて挑戦を受けた様相を明らかにし、20世紀後半の人道主義における脱主権国家化を先取りする法的な境界地帯の事例を提示した。第2章において今野は、20世紀前半のアメリカ及びカナダにおいて漁民を白人住民に限定する政治が展開されたこと、そして北米「法-文化圏」内における価値体系の変容や転用に人種を核とするローカルな秩序規範が影響し得るということを示した。
- (2) **越境活動が創出する「国民」理念**：第3章において上林は、南アフリカの人種隔離撤廃運動においてアフリカ・ナショナリズムとは一線を画す南アフリカ市民権の概念を唱道した政治家・知識人Z・K・マッシュューズ思想に着目し、その淵源を欧米への留学とそこで培われた人類学的な専門性に見出すことができるとの議論を展開した。第4章において石井は、愛国主義と平和主義・コスモポリタニズムとのはざままで葛藤した来日アメリカ人宣教師たちが、多様性を重視する戦後のキリスト教普遍主義の生成に重大な役割を果たしたことを裏付けた。
- (3) **グローバル化とアメリカ政治文化**：第5章において小滝は、キューバ難民プログラムの分析から、1960年代末以降のアメリカ福祉改革において重点化するワークフェアの起源の1つが、第2次世界大戦後に成立した強制的な就労を伴うヨーロッパの難民支援「法-文化圏」に求められることを突き止めた。第6章において佐藤は、国際NGOアムネスティ・インターナショナルと下部組織アムネスティUSAとの対立を考察し、アメリカの中東政策をめぐる国内の政治文化が、国際的な人権「法-文化圏」の限界を浮き彫りにする様相を明らかにした。

本研究はまだ萌芽の段階にあるが、一方でこの研究成果が示した新たな「法-文化圏」という操作概念の援用により、今後幅広い知見の蓄積と、分野を架橋する学術的議論の広がりや交流が期待される。たとえば隣接概念である「帝国」の法規範や、その再現の大半が文書による記録ではなく人類学的な知見に頼らざるを得ない先住民の法文化との関連性についても、今後丁寧に見てゆく必要があるだろう。さらに、イスラーム圏やアジア圏など他「法-文化圏」と、欧米的、あるいはキリスト教的な「法-文化圏」との邂逅や衝突、折衝、融合を見ることによっても、この研究の地平をグローバルに広げてゆくことができるであろう。

<引用文献>

Smith, Rogers M. 1997. *Civic Ideals: Conflicting Visions of Citizenship in U.S. History*. New Haven, CT: Yale University Press.

Esping-Andersen, Gøsta. 1990. *The Three Worlds of Welfare Capitalism*. Princeton, NJ: Princeton University Press.

Hirota, Hidetaka. 2017. *Expelling the Poor: Atlantic Seaboard States and the Nineteenth-Century Origins of American Immigration Policy*. New York: Oxford University Press.

石井紀子・今野裕子編. 2022. 『「法-文化圏」とアメリカ——20世紀トランスナショナル・ヒストリーの新視角』上智大学出版。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 石井紀子	4. 巻 57
2. 論文標題 (書評)小檜山ルイ『帝国の福音 ルーシィ・ピーボディとアメリカの海外伝道』(東京大学出版会、2019年)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アメリカ研究	6. 最初と最後の頁 245-250
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 牧田義也	4. 巻 56
2. 論文標題 植民地期フィリピンにおける保健衛生事業と赤十字人道主義	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アメリカ研究	6. 最初と最後の頁 69-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11380/americanreview.56.0_69	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Noriko Ishii	4. 巻 22
2. 論文標題 Imagining an Anti-Racist Cosmopolitanism: Localization, Imperialism and Transnational Women's Activism in Interwar Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Colonialism & Colonial History	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1353/cch.2021.0044	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Tomohiro Kambayashi	4. 巻 -
2. 論文標題 Reversing the Flow: 'Civilization' and 'Tradition' in John L. Dube's Ukuziphatha Kahle (Good Manners)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Five Hundred Years Archive, Archive and Public Culture, University of Cape Town	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石井紀子	4. 巻 16
2. 論文標題 書評：小檜山ルイ『帝国の福音 ルーシィ・ビーボディとアメリカの海外伝道』（東京大学出版会、2019年）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ジェンダー史学	6. 最初と最後の頁 79-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小滝陽	4. 巻 844
2. 論文標題 対峙する人道と人権：欧州・キューバ難民への就労強制	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 41-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤雅哉	4. 巻 844
2. 論文標題 戦略としての人道主義：占領下パレスチナの人権運動	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 28-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧田義也	4. 巻 844
2. 論文標題 人道と人権：歴史的視座の課題と展望	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 5-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤雅哉	4. 巻 20
2. 論文標題 書評論文 油井大三郎著『平和を我らに 越境するベトナム反戦の声』（岩波書店、2019年）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アメリカ太平洋研究	6. 最初と最後の頁 173-178
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 牧田義也	4. 巻 8
2. 論文標題 人道・帝国・植民地：第一次世界大戦期のアジア太平洋地域における国際赤十字運動	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人道研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 50-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masaya Sato	4. 巻 v.30 n.2
2. 論文標題 Bella Abzug's Dilemma: The Cold War, Women's Politics, and the Arab-Israeli Conflict in the 1970s	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Women's History	6. 最初と最後の頁 112-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1353/jowh.2018.0016	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計43件（うち招待講演 10件 / うち国際学会 19件）

1. 発表者名 Tomohiro Kambayashi
2. 発表標題 Epic collaboration: Mazisi Kunene and Japanese anti-apartheid activists
3. 学会等名 5th South Africa-Japan University Forum (SAJU Forum) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yoshiya Makita
2. 発表標題 The Politics of Benevolence: The Red Cross Movement in the Asia Pacific at the Turn of the Twentieth Century
3. 学会等名 Kerala Social Science Research Forum, Kerala, India (online) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 上林朋広
2. 発表標題 マンデラについて考えること、マンデラを通して考えること：暴力の中の非暴力的契機
3. 学会等名 日本アフリカ学会第58回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上林朋広
2. 発表標題 時間を遡行する：ジョン・デュベの行儀作法書Ukuziphatha Kahleにおける「文明」と「伝統」
3. 学会等名 第3回アフリカ歴史・人類学研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tomohiro Kambayashi
2. 発表標題 Reversing the Flow: 'Civilization' and 'Tradition' in John L. Dube's Ukuziphatha Kahle (Good Manners)
3. 学会等名 Research Development Workshop, Archive & Public Culture, University of Cape Town (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Noriko Ishii
2. 発表標題 Nationalism and Internationalism: Japanese and British Women's Imaginations of the Other in the World Student Christian Movement after the Russo-Japan War
3. 学会等名 Nationalism and Internationalism in the Young Ecumenical Movement, 1895-1920s, Humboldt-Universität zu Berlin, Theologische Fakultät (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Noriko Ishii
2. 発表標題 Fighting Racism or War Efforts: Returning Japan Missionaries in Wartime America
3. 学会等名 Annual Meeting of the American Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Noriko Ishii
2. 発表標題 The Global and the Local: Imperialisms and Transnational Women's Activism in Kobe College Expansion Campaign in Japan, 1917-1934
3. 学会等名 112th Annual Meeting of Pacific Coast Branch-American Historical Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小滝陽
2. 発表標題 キューバ難民プログラムと1960年代アメリカの福祉改革
3. 学会等名 アメリカ学会第53回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yo Kotaki
2. 発表標題 Sharing Paternalism between Refugee Assistance and Welfare Reform in the 1960s America
3. 学会等名 Annual Meeting of the American Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuko Konno
2. 発表標題 Fishing the Pacific: Translocalism, Resistance, and Solidarity among Terminal Islanders before and during WWII
3. 学会等名 Annual Meeting of the American Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤雅哉
2. 発表標題 合評会コメント(合評本: 油井大三郎『平和を我らに』岩波書店、2019年)
3. 学会等名 アメリカ史学会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masaya Sato
2. 発表標題 Restricting Inflow: The Arab-Israeli Question in the U.S. Human Rights Movement during the 1970s
3. 学会等名 Annual Meeting of the American Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 牧田義也
2. 発表標題 Transcultural Entanglements in the Pacific World: War, Memory, and the Geopolitics of Humanitarianism
3. 学会等名 日本アメリカ学会第53回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 牧田義也
2. 発表標題 At the Crossroads of the Past and Present: History and Memory in Urban Landscapes of Osaka
3. 学会等名 10th Conference of Urban Space and Social Life (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshiya Makita
2. 発表標題 The American Red Cross and the Transpacific Origins of the U.S. Public Health System
3. 学会等名 Annual Meeting of the American Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 今野裕子
2. 発表標題 Transpacific Community Building: Wakayama Villages and California's Fishing Industry in the Early 20th Century
3. 学会等名 Practicing Power in the Global Asia-Pacific: Environments, Migrants and Womanhood (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Noriko Ishii
2. 発表標題 From Mission to Secular: localization, imperialisms and transnational women's activism in 1920s Japan
3. 学会等名 International Federation for Research in Women's History Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井紀子
2. 発表標題 Difficult Conversations across Religions, Race and Empires: American Women Missionaries and Japanese Christian Women during the 1930s and 1940s
3. 学会等名 Practicing Power in the Global Asia-Pacific: Environments, Migrants and Womanhood (招待講演)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 石井紀子・今野裕子(編著)、上林朋広・小滝陽・佐藤雅哉・牧田義也(著)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 上智大学出版	5. 総ページ数 242
3. 書名 「法-文化圏」とアメリカー20世紀トランスナショナル・ヒストリーの新視角	

1. 著者名 山岸敬和・岩田仲弘(編著)、松本俊太、武井寛、松本佐保、佐藤雅哉、花木亨、長畑明利、白石亘、赤川肇、杉藤貴浩、吉田通夫、金杉貴雄(著)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 大学教育出版	5. 総ページ数 280
3. 書名 激動期のアメリカ * 佐藤雅哉「いかにしてトランプ外交は生まれたか? 歴史と国際関係から」74-91	

1. 著者名 上智大学アメリカ・カナダ研究所編、小塩和人、増井志津代、石井紀子、伊達聖伸、水谷裕佳、出口真紀子、前嶋和弘、谷洋之、飯島真里子、小川公代、ケネス・G・オキモト、飯野友幸著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Sophia University Press上智大学出版;ぎょうせい (発売)	5. 総ページ数 326
3. 書名 『北米研究入門2 「ナショナル」と向き合う』 *石井紀子「キリスト教青年運動と女性－万国基督教学生連盟の草創期の活動から」61-85	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Practicing Power in the Global Asia-Pacific https://instacs2.wixsite.com/practicing-power
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小滝 陽 (KOTAKI Yo) (00801185)	関東学院大学・国際文化学部・講師 (32704)	
研究分担者	今野 裕子 (KONNO Yuko) (10707623)	亜細亜大学・国際関係学部・講師 (32602)	
研究分担者	佐藤 雅哉 (SATO Masaya) (30816319)	愛知県立大学・外国語学部・講師 (23901)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	牧田 義也 (MAKITA Yoshiya) (90727778)	上武大学・ビジネス情報学部・講師 (32301)	
研究分担者	上田 朋広 (上林朋広) (KAMBAYASHI Tomohiro) (70876250)	一橋大学・大学院社会学研究科・特任講師 (ジュニアフェロー) (12613)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関